

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年十月度 入選句（投稿総数二千十四句・小中生投句数千三百二十一句）

特選

選者 西田 拓郎

ぶどうのねつぶは何つぶあるのかな 大垣市 山元 果歩(小三)

白のお皿の上に置かれた一房のみずみずしいぶどう。果歩さんはそのぶどうを今まさに食べようとしているんですね。その時、ふと、「一房にはいくつの粒がついているのだろう」と思ったのでしよう。誰もが思うことだけど、その素直な気持ちをうまく表現しています。でも、みんなおいしいぶどうを味わうのが先で、きちんと数えることはあまりないようです。

つゆ草は白のおひげをはやしてる 大垣市 古田 晏寿(小四)

つゆ草は道ばたや荒地地に生える青い可愛らしい花です。朝咲いたら花はもう昼にはしぼんでしまいます。その姿はまるで朝露のように思えます。だから露草と名付けられたのでしょうか。よく見るとさやの縁には柔らかな白いひげがあります。これが花の青さを一層引き立てているのです。晏寿さんはよく観察して発見したんですね。

台風はねているうちにすぎたって 大垣市 平野 瑠努(小六)

台風は強い風雨を伴いながら昼夜関係なくやってきます。瑠努さんも心配だったのでしよう。でも眠くなって寝てしまいました。おうちの人がしっかりと守っていてくれるので安心したんですね。起きたときにはもう台風は去っていました。その事実をうまくとらえています。瑠努さんを大切に思い守ってくれる人がまわりにたくさんいることを忘れてはいけません。

秀逸

くりごはんたべるためにはひとくろう 大垣市 こう田 えいすけ(小二)

あかとんぼ夕日ながめてあかめがね 大垣市 後藤 幸太郎(小二)

秋の山まっかなかおしててれている 大垣市 つげ 大和(小三)

たいふうでみんな家にとじこもる 大垣市 坂尾 真弦(小三)

どんぐりがぼうしをかぶって落ちてくる 大垣市 水谷 光希(小三)

赤とんぼ夕ぐれどきにやってくる 大垣市 渡邊 陽果(小五)

ただいまと一緒に 入る 秋の風 大垣市 近藤 芹香(小六)

秋の暮手をふる私かげ伸びて 大垣市 渡辺 妃菜(小六)

カギわすれ家に入れず秋の暮 大垣市 服部 敦仁(小六)

くりごはんかぞくみんなでおかわりだ 大垣市 小澤 友希(小六)

入選

うんどうかいかちまけなしでみなゆうしよう
 虫さんもがつしょうのれんしゅうしているの？
 赤とんぼ夕やけ見ててまつかつか
 どんぐりのぼうしがとれておとしもの
 おいしいな今日のごはんはしんまいだ
 トンボたちおいかけっこで遊んでる
 舟下りもみじまう中すすんでく
 秋風にメロディーのせてマーチング
 さくらんぼ色も形もうり二つ
 蝉の声大垣城に染みわたる

大垣市 小林 奈央(小二)
 大垣市 糞矢 みう(小二)
 大垣市 高橋 聖羅(小三)
 大垣市 林 実南(小三)
 大垣市 金森 早紀(小四)
 大垣市 竹中 亜優香(小五)
 大垣市 安田 美槻(小五)
 大垣市 佐竹 真歩(小六)
 大垣市 小林 理子(小三)
 山県市 辻 妙奈(中二)

入選

ひまわりの花がひらいて太陽だ
 育ててるトマトがまっかな顔みせる
 田うえの日日よう日だと手伝わなきゃあ
 したじきがうちわのかわり勉強中
 せんぷうきごうごう言って風おくる
 さんぽ道ザリガニ見たよ用水路
 トマトさんあかくなってねまってるよ
 あまがえるよるになきだすねないのか

大垣市 深尾 紗花(小四)
 大垣市 小川 莉歩(小五)
 大垣市 平松 佐織(小五)
 大垣市 小林 凌大(小五)
 大垣市 小林 知星(小三)
 大垣市 川合 乃愛(小三)
 大垣市 伊藤 巧登(小二)
 大垣市 伊藤 巧登(小二)
 大垣市 伊藤 巧登(小二)

選者吟

新米を研いで幸せ握りけり

拓 郎